

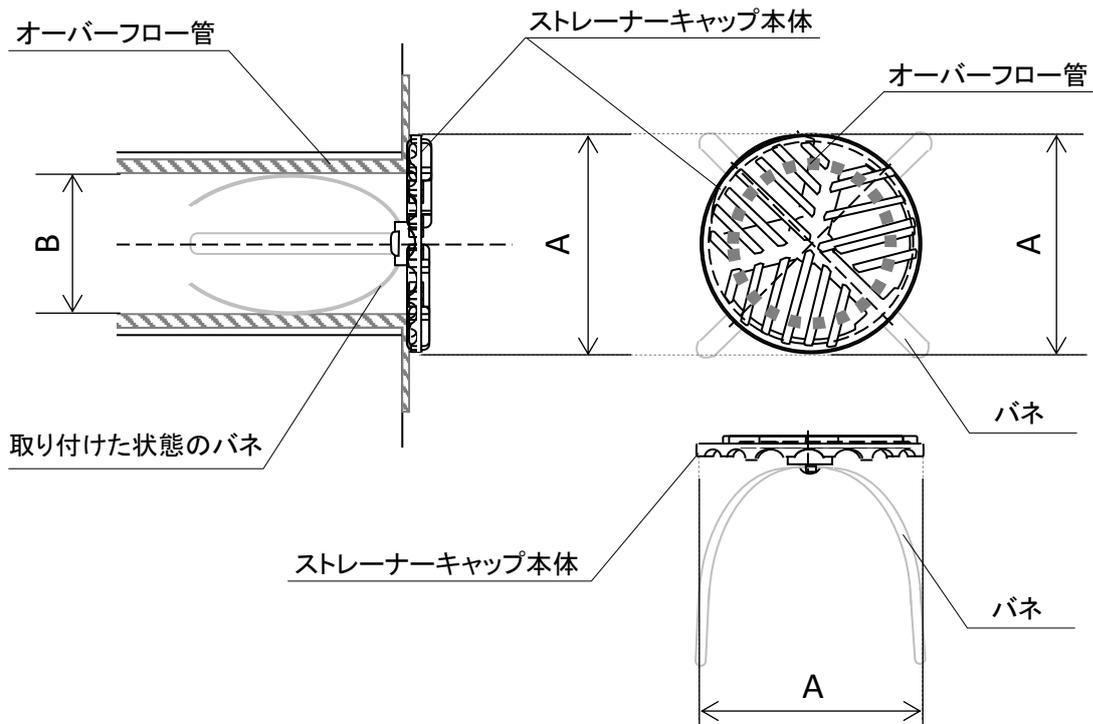
1. 対象部材

オーバーフロー管ストレーナーキャップ

略称：CjK ストレーナーキャップ

2. 標準(共通)化の部位

標準(共通)化の部位を図1に示す。



A：ストレーナーキャップの幅
B：オーバーフロー管実内径

図1－標準(共通)化の部位

3. 寸法・形状

図1の各部位の寸法を表1に示す。

表1－各部位の寸法

単位：mm

項目	寸法
A：ストレーナーキャップの幅	≥ 66

4. 表示方法

部材・印刷物・電子媒体などに、長期使用対応部材であることを表示する。
または、”CjK”マークを表示する。

5. 特記事項

5.1 関連部材の具備すべき条件

ストレーナーキャップが取り付けられるオーバーフロー管の実内径Bは、VU管（VU40～VU50）、VP管（VP40～VP50）を使用していることから表2に示す範囲とする。

表2ーオーバーフロー管実内径

単位：mm

項目	寸法
B：オーバーフロー管実内径	$40 \leq B \leq 56$

5.2 ストレーナーキャップの形状・厚み

ストレーナーキャップの形状、厚みは定めない。

5.3 ストレーナーキャップの固定

- ・ストレーナーキャップの固定はバネによるものとする。
- ・バネの形状・本数・固定位置はこれを定めないが、強風による飛散等が生じない程度の保持力を有するものとするのが望ましい。
- ・固定用バネがオーバーフロー管から飛び出る場合、またはバネの先端同士が干渉して排水を阻害する恐れのある場合等は、バネを適宜切断し取り付けを前提とした。その場合のバネの残存寸法は、ストレーナーキャップががたつかない程度とする。

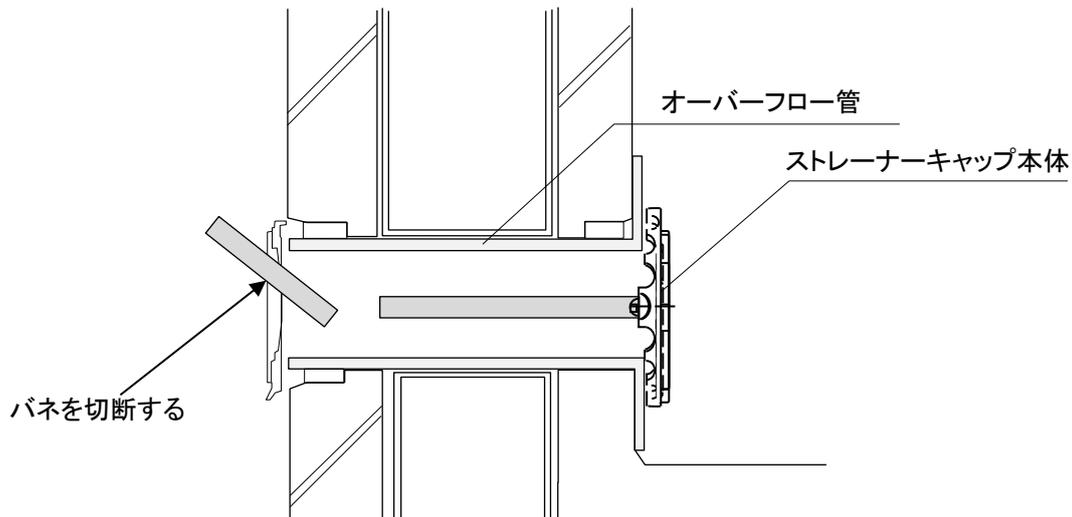


図2ー固定バネの加工

5.4 ストレーナーキャップの選択

ストレーナーキャップの幅の上限を決めていないことから、周辺部材によって納まらないことがあるため、ストレーナーキャップの選択に当たっては、現場の納まりを確認する。

6. 解説

ストレーナーキャップの幅は、オーバーフロー管にはまり込まない程度の寸法とした。その程度は、オーバーフロー管の中心を通る線上において、オーバーフロー管内面からストレーナーキャップ外周の端空き寸法（ a 及び b , a' 及び b' 等）合計の最小値が10mm以上となることとした。

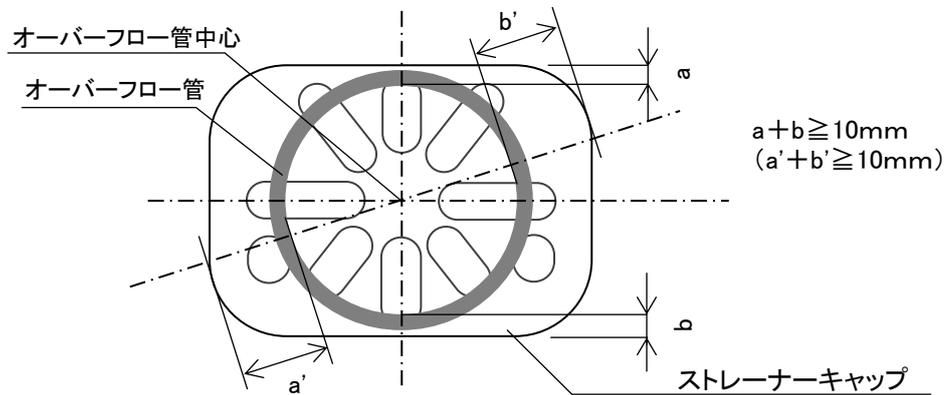


図3 - ストレーナーキャップの形状例

7. 共通事項

7.1 寸法について

寸法は基準値を示し、公差・許容差を表すものではない。

7.2 交換について

交換については、専門知識を有する者が行うことを推奨する。

注記) 専門知識を有する者とは：専門的知識、技術、経験を有する者である。